

(代表質問)

質問日	令和8年3月6日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	市民クラブ	議席番号	11	氏名	花井 洋介
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 令和8年度予算編成について	<p>市長は就任以来「浜松をもっと元気に！～浜松から地方創生～」を掲げており、まち・ひと・しごとの創生を一体的・総合的に進めてきた。財源配分方式での予算編成としたことにより、各部局での自主性・責任が高まり、事業の選択と集中が進むと期待する。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 改めて令和8年度予算編成における市長の意気込みについて伺う。</p> <p>(2) 市長はこれまでも部局間の横の連携強化を訴えてきたが、一般的に財源配分方式のデメリットは部局横断的な政策が進みにくいことと言われている。各部局の横連携が進み、政策が活性化されたのか伺う。</p> <p>(3) 財源配分方式初年度となる令和8年度予算編成を通じたメリットとデメリットについて、職員の声も含めどうであったか伺う。</p>						中野市長 " 鈴木財務部長
2 部活動の地域展開について	<p>令和8年9月以降、休日の中学校部活動が地域展開されることについて、昨年10月にガイドライン(案)を公表しており、具体的な内容が定まってきたと認識している。しかしながら、依然として保護者や指導者などから心配する声が多いのも事実である。差し迫る令和8年9月以降の地域展開に向けて、以下伺う。</p> <p>(1) 本市は、昨年10月にガイドライン(案)を公表したが、その後の説明会や意見交換の場において、活発な意見や提案がなされてきたと認識している。反映された意見など、修正した部分について伺う。また、ガイドライン策定後の体制について伺う。</p> <p>(2) 本市が認定した地域クラブ活動である、はまクル認定クラブについて、本年4月から申請・登録をしていくにあたり、すでに問い合わせが多数あると聞いているが、状況を伺う。</p> <p>(3) はまクル認定クラブ立ち上げ時の課題として、代表者の人選に苦慮しているという声を聞く。クラブの立ち上げのサポートを強化していく必要があるが、どのような体制をつくっていくのか伺う。</p> <p>(4) 地域展開の体制が整っていない部活動について心配する声が依然としてあり、ガイドライン等制度の周知を徹底していく必要があると認識している。具体的にどのような対応をするのか伺う。</p> <p>(5) 指導者について、指導員として人材バンクの登録を進</p>						吉積学校教育部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>めていくと認識しているが、勤労者にとって副業に対する雇用主の理解が不足しており、報酬を受け取りづらい等の声を聞いている。雇用主に対してどのような周知を行っていくのか伺う。</p> <p>(6) はまクル認定クラブとそれ以外のクラブについても、子供たちの貴重な受け皿として周知していく必要があると考えるが、HPなどで一元管理できる環境を整える考えはないか伺う。</p>	
<p>3 学校における働き方改革について</p>	<p>本市教育委員会は、平成31年1月の中央教育審議会答申や同年3月の文部科学省事務次官通知を踏まえ、学校における働き方改革を推進してきた。野秋教育長も就任時の所信表明において、注力していくべき教育課題の一つに学校における働き方改革を挙げ、働きがいのある職場づくりを推進することを述べられている。</p> <p>国は、教育職員の長時間労働を喫緊の課題と位置付け、昨年6月に給特法を改正し、各教育委員会に「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定を義務付けた。同年9月には健康・福祉確保に関する指針を公表し、本市でも新たな計画策定が進められている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 新たな計画策定に対する教育長の思いを伺う。</p> <p>(2) これまで行ってきた取組の成果と、新たな計画の方向性について伺う。</p> <p>(3) 校務支援システム（T-r p o r t）について、学校での校務DXを目的に今年度から導入されたが、これによりどのような教職員の負担軽減がなされたか伺う。また、校務支援システムの課題と今後の対応について伺う。</p>	<p>野秋教育長</p> <p>”</p> <p>吉積学校教育 部長</p>
<p>4 遠州灘海浜公園篠原地区道の駅整備事業について</p>	<p>令和6年度から官民連携手法導入可能性調査として、サウンディング型市場調査や事業手法の検討を行い、令和7年度末を目途に、基本計画の策定を進めている。多くの企業が高い関心を持ち、特に地元企業の参画意欲が高いなど、道の駅に対する期待は高いと感じている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 「バイクのふるさと浜松」にふさわしい道の駅として、バイクユーザー目線の道の駅構想を提案してきたが、検討状況を伺う。</p> <p>(2) 道の駅事業を進める中で、庁内各部署からのアイデアや提案を求めていくことが重要と考える。どのように連携して進めていくか考えを伺う。</p> <p>(3) 道の駅から、大海原を望むことができれば、フォトスポットとしても大きな反響が出ると考えるが、そのような場を設置する考えはないか伺う。</p>	<p>工藤企画調整 部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
5 プロスポーツチームの誘致について	<p>世界のスポーツ市場は、130兆円規模と言われており、半導体やスマートフォン事業に匹敵する規模へと拡大している。本市はスポーツが盛んな地域でありながら、メジャースポーツのプロスポーツチームがなく、その市場の価値を享受できておらず、地域と人の活性化に向けてプロスポーツチームの誘致や新規参入を積極的に進めていく必要があると考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) プロスポーツチームについて、特にメジャースポーツと言われている野球、サッカー、バスケ、バレーボール、ラグビーなどは多くの来場者が見込まれ、地域への波及効果も大きい。こうしたチームの誘致や新規参入を後押しするため、庁内の関係部署が一体となった「チーム浜松」として、連携して取り組む必要があると考えるが、いかがか伺う。</p> <p>(2) プロ野球中日ドラゴンズは2軍本拠地の移転に伴い、新たな場所を検討しており、4月より募集を開始すると言われている。プロスポーツチーム誘致に対する本気度を内外に示す意味でも、中日ドラゴンズと過去から連携をしている本市も手を挙げるべきと考えるが、いかがか伺う。</p>	杉田スポーツ振興担当部長
6 公共交通における自動運転について	<p>人口減少や高齢化の進行、自家用車依存の高まりにより、公共交通の利用者減少が続いており、特に路線バスは減便や路線再編が進み、市民生活への影響が懸念されている。公共交通インフラの課題には、様々な施策を講じていく必要があり、自動運転についても近い将来、その課題を解消していく大きな技術の一つと捉えている。公共交通における自動運転の今後の取組について伺う。</p>	濱田都市整備部長
7 特別の理由による任意予防接種費用助成事業について	<p>骨髄移植などにより、定期予防接種で獲得した免疫が失われ、医師により再接種が必要とされた方を対象に任意予防接種費用の助成を行っているが、18歳未満が対象となっている。大人になってから発症し、骨髄移植が必要となった方は、予防接種を受けるために多額な費用を要しており、病気による肉体的負担に加え、費用面における精神的な負担もあり大変な苦勞をされている。そこで、年齢制限の撤廃をすべきと考えるが、本市の考えを伺う。</p>	平野医療担当部長